

2014 年 6 月 30 日 「カナン定着」 石川祐司教会長

以下に、訓読のみ言を掲載いたします。

＜訓読のみ言＞

『天聖經』

第九篇 家庭教会と氏族メシヤ 第二章 氏族的メシヤ

第四節 還故郷と氏族的メシヤ

真の故郷と先祖の役割

3 この地球星には、いまだ真の故郷が生まれていません。宗教的に見れば、そうなのです。真の故郷が生まれていないのです。ですから、真の故郷には真の父母がいなければなりません。真の故郷の家において主人になるべき方は真の父母であり、その真の父母は、真の男性と真の女性が、真の愛を柱として結ばれた夫婦を意味します。愛の柱に縛られて自分の思いどおりにできず、一生の間、それをつかんで暮らす父母がいなければなりません。そのような真の父母でなければなりません。真の父母がいて、真の愛で愛してこそ、真の息子、娘が出てくることのできるのです。

4 墮落によって、天の側が次子の悲しみの立場に立ったので、人間たちのために長子権を回復させるのですが、神様の思いどおりにはできないのです。この氏族を世界個人的長子権復帰、世界家庭的長子権復帰、世界氏族的長子権復帰、世界民族的長子権復帰、世界国家的長子権復帰、世界的長子権復帰をしてこそ、墮落していないエデンの園においてサタンの讒訴圏を抜け出した本然の家庭出発が始まるのです。これを見れば、私たちは故郷を失った民です。故郷を失った民が、故郷を訪ねて帰るのですが、これほど難しいとは思いませんでした。

5 蕩滅復帰路程において、メシヤが来すべきこととは何でしょうか。世界史的な蕩滅基準を越えたところから、アダムの上落圏以上のところから神様の摂理が出発することはできないのです。今まで故郷に帰れる道が、アダムの上落によって塞がっていたので、故郷に帰ろうとすれば、アダムの代身者が来て、個人から家庭、氏族、民族、国家、世界的な蕩滅条件を設定しなければなりません。そのようにしなければ、帰ることができないのです。

6 今までは、サタンが故郷を占領し、主人の振る舞いをしながら私たちを追い出したのですが、今からは皆さんが故郷に行くので、皆さんがサタンを追い出さなければなりません。それは自動的です。そのようになれば、善の霊たちが皆さんの故郷に来て守るのです。悪の霊をすべて打ってしまうのです。それが原理観であり、先生の観です。これは歴史に記録されることです。先生は、世界に還故郷を宣布できるその時を見つめて歩んできました。父母が霊界に逝かれたことを思えば、言葉を失います。しかし、皆さんの故郷で皆さんの数多くの親戚が、私の母、父、兄弟の代わりに解放されることを思いながら、そのことを忘れて祝福してあげるのです。